

かざね
四万十の風音

しんせん
森&川だより

松野西小学校で年間を通じた森林環境教育を実施中

愛媛県松野町立松野西小学校の四年生は、平成19年度から「総合的な学習の時間」を利用し毎年5～6回の継続した森林環境教育を実施しています。

今年度は、6月27日に、四年生18名を対象に、森林の働きや校庭の樹木学習と樹木名板作製について支援の要請を受け、校庭にある樹木の名前や特徴を調べて、樹木名板や樹木の立て札を製作、設置することにより、樹木への感心を持たせる目的で、第1回目の森林環境教育を実施しました。

最初に、「四万十川森林ふれあい推進センターの活動内容について」の説明



校庭の樹木学習の様子



校庭の樹木学習の様子

をした後、大切な自然の1つである「森林の働き」について説明しました。次に、校庭に出て33種の樹木を観察しました。樹木の前で、その木の名前や特徴について説明しました。その後教室で、ヒノキの板に、ポスターカラーで科名と和名を書き、余白には思い思いのイラストを描いて樹木名板を完成させました。



樹木名板完成したよ

出来上がった樹木名板は、早速校庭の樹木に児童が取り付けしました。

7月6日には、第2回目の森林環境教育として木工クラフト製作を行いました。



「木材の特徴」について説明の様子

始めに、「木材の特徴」である軽くて丈夫なことや加工しやすいことから、いろいろな生活用品に使われ、私達の暮らしを快適にしてくれる素晴らしいものであること。きちんと手入れをすれば千年以上もの耐久性のある建物もできることなど、木の良さについて説明しました。なお、現在の接着技術の発達によって作られている集成材や合板、世界一比重の重たい木リグナムバ

イタ、世界一比重の軽い木バルサ、主に家などの材料として利用されているスギやヒノキの板や角材、キリ、イスノキなどの色々な木を見せて、児童がそれらを手にとってそれぞれの木の違いなどが理解出来るよう工夫しました。

最後は、ノコギリやナイフ等の刃物や万力等の道具を使っての自由製作です。怪我しないよう道具の使用方法や製作時の注意点について説明した後、パンダ、カニ、タヌキ、ネコなどのかわいいサンプルを見た児童達は、「これ、作る」と決めて、早速どの児童も一生懸命に、ミズメやヒメシャラ、ウツギなどの木の枝でクラフトづくりに挑戦し、手作りの置物、ブローチ等を完成させました。

今回、作品の製作を通じて、木の持つぬくもりや素材としての木材の良さについて十分に感じてもらったのでは



木工クラフト製作の様子

ないかと思います。

そして、2月期からは、「空飛ぶ種子」や「水の土壌浸透実験」、そして、「炭焼き体験」や「八面山登山」の森林環境教育も引き続き実施する予定です。これらの年間活動を通して、森林の大切さ、木材利用についての理解を深めてもらいたいと考えます。



木工クラフト製作の様子

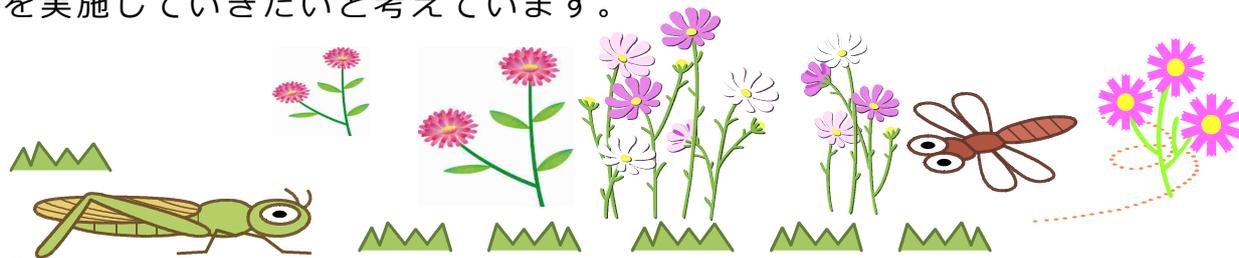
松野西小学校木工クラフトオリジナル作品完成



黒尊山広葉樹植栽地の下刈作業を実施

当センターでは自然再生事業の取り組みとして、平成25年11月に、四万十森林管理署管内の黒尊溪谷親水公園周辺の自然再生を行うために、四万十川地域住民を代表する組織「しまんと黒尊むら」の地元住民と協働で、親水公園に隣接する黒尊山国有林9林班に、ヤマザクラ、イロハモミジ、ケヤキ、コナラ、クヌギ等広葉樹の植栽と、シカ防護ネット300mを設置しているところです。

今年の春に、西土佐中学生の職場体験学習で、広葉樹苗木の補植を行ったところですが、植栽地の雑草の繁茂が著しく、生育を阻害していることから、7月11日と12日の両日、シカ防護ネット柵のメンテナンスとあわせて、職員実行で下刈作業を実施しました。今後も植栽木の生育状況より、保育作業を実施していきたいと考えています。



黒尊溪谷親水公園（黒尊山国有林9林班）下刈の作業前、作業後



片島中学生に木工教室



四万十森林管理署と当センターとの合同で、7月13日に宿毛市楠山の旧楠山小学校体育館において、片島中学校の一年生59名を対象にした木工教室を実施しました。生徒達は、サクラやミズメなどの木の小枝を使ったクワガタムシやカブトムシなどの置物やウサギなどのストラップ等を製作して、木に親しんだ一日となりました。



片島中学校木工クラフトオリジナル作品完成



大道マツ再生試験地のシカ防止ネットの点検修理

8月9日に四万十町大道の古屋山国有林2060林班ち小班の大道マツ再生試験地のシカ防止ネット柵のまわりを点検したところ、プラスチック杭（プラスチック杭）が一部浮いて隙間ができていたり、倒木によりネットが一部破損した状況にあったので、職員実行で補修作業を実施しました。

また、アカマツ幼樹（大道マツ後継樹）の被害状況を確認したところ、幸いアカマツ自体の被害は無く、順調に生育していました。

今後においても定期的な管理に努めて参ります。



シカ防止ネットのメンテナンスの様子

黒尊スーパー林道沿いの東屋でスズメ蜂の巣除去

8月23日、黒尊スーパー林道沿いの東屋（黒尊山国有林10林班）にスズメ蜂が巣をしているのを発見しました。このため、8月24日に防護服を着用し、完全装備でスズメ蜂の巣を除去しました。

なお、再び巣を作るかも知れないので、確認のうえ、気をつけて使用して下さい。



スズメ蜂の巣除去作業（黒尊山国有林10林班）の様子



（スズメ蜂の巣除去をしている松山自然再生指導官）

二校で年間を通した森林環境教育「空飛ぶ種子」を実施

9月12日に、松野西小学校四年生18名、また、9月29日には、小筑紫小学校五年生10名を対象に、両校とも今年度第3回目の森林環境教育として「空飛ぶ種子」を実施しました。

今回は、草や木の種子の特徴や樹木が様々な方法で種子を散布する方法についての学習です。



タンポポ



イロハモミジの種
イロハモミジ



ゴンズイ



テイカカズラ



松野西小、空飛ぶ種子学習の様子



松野西小、種子模型製作の様子

風を利用して運ばれる種子もあれば、甘い果実で覆われた種子は、動物に食べられて、フンと一緒に散布されます。また、水に浮いて流れて、散布する種子もあります。さやがはじけたり、ドングリのように転がって散布する植物など、植物がさまざまな方法で種子を散布することを説明しました。

その後、いろいろな植物の種子の実物を見せて説明し、そのなかで、「カエデ」「テイカカズラ」「アルソミトラ」（東南アジア産のウリ科の植物）の風や翼を使って飛ぶ種子が、実際にどのように飛ぶかを観察しました。大きな翼を持つ種子「アルソミトラ」がグライダーのように飛ぶと「オー」と驚いていました。



アルソミトラ

次に、「ニワウルシ」「ラワン」「マツ」「アルソミトラ」の種子の模型をスチレンシートや色紙等を使って作りました。

最後に、教室や体育館などで種子模型を飛ばすと、くるくると回りながら落ちてくる様子や、ふわっと滑空する様子が「おもしろい」と何度もみんなで飛ばしっこをしていました。

児童から終わりの挨拶の中で、草や木が種をまく方法に、「風を利用する」、「動物を利用する」、「水を利用する」、「自分の力で飛ばす」という大きく分けて4つの方法があることがわかりました。また、色々な種子があつて色々な飛び方があることがわかりましたと感想がありました。

今回の学習等を通じて、草や木、自然に対する興味への入り口となってくれることを期待しています。



ネナシカズラ



種子模型を飛ばしてみよう

小筑紫小、アルソミトラ種子模型



小筑紫小、ラワン種子模型



林野庁 四国森林管理局
四万十川森林ふれあい推進センター
高知県四万十市西土佐西ヶ方586番地2
電話0880-31-6030 FAX 0880-31-6031



